成果検証報告書

【成果指標の達成状況】

成果検証実施年度　平成26年度

<table>
<tr><td>市町村名</td><td colspan="6">鳩山町</td></tr>
<tr><td>提案事業名</td><td colspan="6">平成の国分寺造営でつなぐ古代瓦のふるさと鳩山再現事業</td></tr>
<tr><td>事業期間</td><td colspan="6">平成25年　～　平成25年度</td></tr>
<tr><td rowspan="8">成 果 指 標</td><td colspan="6">（成果を検証する指標）
・イベント参加者数と「はとやま祭」来場者数</td></tr>
<tr><td colspan="6">（成果検証の具体的な方法）
・瓦制作、焼成の参加者数に「はとやま祭」での出発イベント参加者の人数を加えた総来場者を昨年度と比較する。</td></tr>
<tr><td colspan="4">（成果の目標値に対する実績）</td><td>達成度</td><td>A</td></tr>
<tr><td>従前値
(24年11月時点)</td><td>・はとやま祭来場者数
約 3,600人</td><td>目標値
(25年11月時点)</td><td>・はとやま祭来場者数
約 4,000人</td><td>実績値
(25年11月時点)</td><td>約4,120人</td></tr>
<tr><td colspan="6">（施設建設等の場合の実績）</td></tr>
<tr><td>年間利用者数
（人）</td><td colspan="2">（目標）
（実績）</td><td>稼働率
（%）</td><td colspan="2">（目標）
（実績）</td></tr>
<tr><td colspan="2">住民への公表状況
及び特記事項</td><td colspan="4">・町ホームページで目標値と結果を公表する。</td></tr>
</table>

【事業効果の整理･原因分析】

平成25年度　構成事業

構成事業名	事業効果	事業効果の概要及び原因分析
① 国分寺瓦運上再現事業	○	・8月31日の「古代瓦作り体験」事業では、鳩山町教育委員会・東京都国分寺市連携事業「市外文化財めぐり一武蔵国分寺の瓦生産地めぐり、古代瓦を作る」を実施。 ・国分寺市民46人と鳩山町民18人の総計64人が古代瓦作りをとおして、交流と繋がりある歴史・文化について体験学習し、古代瓦のふるさと鳩山のPR効果を得た。
	○	・9月21日の「古代瓦作り体験」事業では、当町内中学生以上の町民を対象に、町教育委員会主催事業「古代の技で瓦を作ってみませんか」を実施。 ・応募した13人の町民がボランテイアの指導の下、瓦の製作を体験し、瓦作りをとおして「古代瓦のふるさと鳩山」への再発見効果を得た。
	○	・「復元窯焼成実験」事業では、東京都国分寺市が計画する「平成の国分寺造営プロジェクト」の一翼を担う企画として、天平時代と同じように、その講堂跡の基壇復元に使用される、鳩山生産の国分寺瓦を運上イベントに向けた事業。 ・町外からの10人を含む47人の見学者があり、運上イベントに向けた機運とを高め、PR効果を得た。
	○	・11月2日の「国分寺瓦運上出発式」事業では、第34回「はとやま祭」会場にて、武蔵国分寺創建期の瓦の8割を焼いた生産地鳩山町と、その供給先である武蔵国分寺跡がある東京都国分寺市の両自治体の文化財を通じた連携事業として実施し、武蔵国分寺創建期における鳩山町を再認識する効果を得られた。 ・はとやま祭会場では、ゆるキャラの共演や国分寺のブースを設けるなど、お互いのPR効果や自治体交流を図ることができた。
	○	・11月4日の「運上瓦受け渡し式」事業では、第30回「国分寺まつり」会場にて、武蔵国分寺創建期の瓦の8割を焼いた生産地鳩山町と、その供給先である武蔵国分寺跡がある東京都国分寺市の両自治体の文化財を通じた連携事業として実施。 ・国分寺駅から国分寺まつり会場までの運上パレードや、祭会場に鳩山町のブースを設けるなど、鳩山町の認知度を高めつつ交流を図ることができた。

【成果検証の総括・改善策の検討】

実施事業について 十分に成果が認められた点	・事業全体として、町内外からも注目を集め参加者も多く、十分なPR効果があった。また、古代から繋がりがある国分寺市との連携事業ということで、自治体連携・交流の面からも十分に成果があった。
実施事業について 成果が不十分である点	
成果検証を踏まえた 今後の改善策	・引き続き国分寺市との連携・交流を深めながら、当町の文化財巡りや古代瓦作り体験などを継続して実施することで、「古代瓦のふるさと鳩山」を、より一層広くPRしていく。

（記入上の注意）

【成果指標の達成状況】

・達成度（A・B・C）の判断基準は次のとおりとする。

「達成度A」　目標値に対する実績値の伸び率が８０％以上の場合

実績値≧（目標値－従前値）×80%＋従前値

「達成度B」　目標値に対する実績値の伸び率が６０％以上８０％未満の場合

（目標値－従前値）×60%＋従前値≦実績値＜（目標値－従前値）×80%＋従前値

「達成度C」　目標値に対する実績値の伸び率が６０％未満の場合

実績値＜（目標値－従前値）×60%＋従前値

【事業効果の整理・原因分析】

・事業効果（○・△・×）の判断基準は次のとおりとする。

「事業効果○」　事業効果の発現が十分に認められる

「事業効果△」　事業効果の発現が多少認められるが、不十分な点がある

「事業効果×」　事業効果の発現がほとんど認められない